

令和 6 年 9 月 23 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01406

研究課題名(和文) 東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成

研究課題名(英文) East Asian Modern Law and Related Sciences Network and Human Resource Development

研究代表者

李 英美 (LEE, YOUNGMEE)

明治大学・商学部・専任教授

研究者番号：00449109

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：近代国家を樹立する上で必須の学問であった法学を中心に、留学生を媒体とする日本と東アジア・東南アジア諸地域との学的系譜、人的基盤を明らかにすることで、19世紀末から20世紀前半の東アジア・東南アジアの近代化過程に与えた日本の影響の全貌解明をめざすものである。そこで注目するのは、近代日本について「学び」、「伝搬」し、帰国後、東アジア・東南アジア諸国で「運営・実践」していた中国・韓国・台湾・東南アジア出身の留学生(アジア人留学生)の動向である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の諸科学の発展が大日本帝国のアジアへの拡張と不可分の関係にあったことについては最近の研究ですでに明らかにされたが、主眼はどこまでも「日本の学知」であった。そこで本研究は、そうした観点を乗り越え、アジア諸国における相互交流、相互影響関係の観点から学的系譜について明確にした。このことが学術的意義としてあげられる。

研究成果の概要(英文)：This project aims to shed light on the full extent of Japan's influence on the modernization process in East Asia and Southeast Asia from the late 19th century to the early 20th century by clarifying the academic lineage and human foundation between Japan and the regions of East Asia and Southeast Asia, mainly focusing on law, which was an essential academic field in establishing modern nations. The focus here is on the activities of students from China, Korea, Taiwan, and Southeast Asia (Asian students) who "studied" and "spread" information about modern Japan, and then "operated and practiced" it in East Asia and Southeast Asia after returning home.

研究分野：人文学

キーワード：アジア人留学生 日本留学 近代法学 人材育成 学的系譜 留学経験 人的基盤

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1 研究開始当初の背景

近代日本の大学・学术界が、東アジアおよび東南アジアの法学・関連諸科学の学的系譜・人材基盤形成にどのように関わってきたかについて、法学・関連諸科学のネットワーク、特に学術思想の系譜や人的関係という視座から考察する必要性を認識するに至ったので、本研究を推進することになった。

2 研究の目的

近代国家を樹立する上で必須の学問であった法学を中心に、留学生を媒体とする日本と東アジア・東南アジア諸地域との学的系譜、人的基盤を明らかにすることにより、19世紀から20世紀前半の東アジア・東南アジアの近代化過程に与えた日本の影響の全貌解明をめざすことが、研究の目的である。

3 研究の方法

(1) 本研究は、研究代表者と研究分担者が所属する明治大学史資料センターを拠点として、法学を中心とする学際的アプローチ、韓国・台湾・中国など留学生出身国の研究所および研究者との学術交流によって進められた。同センターは、明治大学関連の諸史料や記録を収集・保存するいわゆるアーカイブとしての機能と、それらをもとに研究活動を推進する機能をあわせ持つ機関であるためである。

(2) 国内外における関係資料や情報の収集(購入や寄贈、インタビューなど)、研究会の開催(本研究期間中に隔週開催)、海外調査の実施(韓国調査、台湾調査)、国内外の研究機関および研究者間の研究交流を通じた研究の相対化および比較研究(国内では九州大学文書館、海外では韓国延世大学グローバル韓国学研究所、台湾の台南科技大学文炳記念館・台湾海洋大学文化研究所・台湾師範大学台湾史研究所)、アジア留学生データベース(中国、韓国の明治大学留学経験者)を作成した。

4 研究成果

(1) 国内外の資料調査・収集

国内の史料調査や研究機関の訪問と関連しては、2022年8月に研究代表および分担者の5名で九州大学文書館を訪れ、戦前の九州帝国大学に留学したアジア人留学生に関する研究調査の現状と課題について意見交換を行った。その過程で、史料の整理状況や管理体系について、本格的な留学生研究のためには、現在の明治大学史資料センターが九州大学文書館のような体裁を整う必要があるという課題をみつけることができた。

海外調査については、まず韓国と関連し、2019年8月にソウルの孫基貞選手記念館(ベルリンオリンピックのマラソン金メダリスト。明治大学経営学部留学)明治大学留学経験者インタビュー(2件)を行うことができた。コロナ後の2023年11月には韓国延世大学グローバル韓国学研究所を訪問、今後の学術交流と2024年2月開催の国際シンポジウムの打ち合わせ、明治大学同窓会韓国支部による明治大学留学経験者を紹介され、インタビューを行った(1件)。成果として、関連資料の収集と現存の留学経験者の記録を取ることができた。

海外調査先の台湾では、2023年3月に研究代表者および研究分担者(5名)が明治大学留学経験者の辛文炳さんが設立した南台科技大学(台南所在)を訪れ、辛文炳記念館所蔵の日本留学中の貴重資料と台南出身の明治大学卒業生名簿を入手できた。また、明治大学商学部で教鞭をとり、帰国後は台湾の自主独立運動を行っていた王育徳記念館を訪れ、台湾現代史における意義と日本との影響関係について調査ができた。台南での最も大きな収穫は葉延珪=葉山巖(1905-1977)に詳しい元台南市議の林必議(90数歳)さんにインタビューができたことがあげられる。そして、台湾国立中央研究院近代史研究所の黄福慶さんと黄自進さんの配慮で貴重な資料の閲覧と日本での検索利用が可能になったことがあげられる。その後、2023年9月にも研究分担者3名が上記各大学を再訪問し、資料収集と利用方法について確認してきた。

(2) 研究会や書評会などの開催・シンポジウムへの参加など

「アジア留学生研究会」を立ちあげて毎月開催し、研究の進捗状況の確認、研究発表、書評会・合評会、他の関連シンポジウムへの参加などの勉強会と、資料収集のための国内外出張、国内外研究者間交流の計画および実行、国際シンポジウムの開催、研究成果の外部への発信など、研究会運営について全員で協議し、全107回実施した。

(3) 資料(卒業留学生)のデータベース化

戦前明治大学出身の韓国・朝鮮人留学生のデータベース化を目指し、人物事典『新日人名辞典』(韓国民族問題研究所、2009年。全3巻)を中心に該当者の探しや入力作業を行い、現役の韓国入留学生にアルバイトに作業を担当させた。作業は第1巻の3分の2ほど進んでいる。中国の政府・大学機関内の元日本留学生を調べるための『民国職員録彙編』や『商科同窓会名簿』、期間限定で無料公開された、中国上海図書館の中華人民共和国成立以前の新聞雑誌の有料データベースである「全国報刊索引」の中から明治大学関連語で検索・ダウンロードし、現役の中国人留学生(大学院生)のアルバイトとし、資料の翻訳と入力作業を行い、データベース化した。

(4) 大学史紀要への投稿

明治大学史資料センターで年1回発行する『大学史紀要』へ、研究論文を本研究期間中に刊行された第26号(2020年3月)から第30号(2024年3月)まで、論文が計8本掲載された。そのほかに、小特集が1回で「アジア留学生史研究の成長と課題」(第26号、2020年)シンポジウム記録が2回で「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成 その中間報告」(第29号、2023年)、「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」(第31号、2025年予定)講演記録が1本で「明治大学に学んだ朝鮮法律留学生」(第30号、2024年)研究動向が1本で「明治大学史資料センターにおけるアジア留学生研究の現状と課題」(第30号、2024年)が掲載された。

(5) 総合講座の開設

本研究の過程で新たに発見した、または明らかにされた明治大学留学生関連の史実を在学生たちに還元すべく、大学史関連の総合講座を全キャンパスの全学部(3キャンパス8学部の全学年対象)に設置した。授業の運営は、研究代表者および研究分担者が講義を分担し受け持つオンバス形式で行ってきた。学生たちにも人気を博し、各キャンパス大人数の受講生になっている。

(6) ウェブ発信

明治大学史資料センターのウェブに「白雲なびく～遙かなる明大山脈」へ原稿をアップし、外部に向けた発信を行った。それらをまとめて後日に書籍として発行した。

(7) 書籍の刊行

『白雲なびく～遙かなる明大山脈 法曹編』(明治大学史資料センター編、DTP出版、2022年9月)、『同上 アジア編』(同、同、2023年1月)、『同上 アジア編』(同、同、2024年9月予定)を刊行した。これらの書籍は韓国と台湾の各研究所および研究者たちにも寄贈し、研究交流や比較研究の可能性を開いた。

(8) 国内外の学術交流および国際シンポジウム開催

「アジア留学生史研究の成果と課題」(2019年9月、於明治大学)というシンポジウムを開催し、鈴木将久(東京大学大学院人文社会系研究科教授)大里浩秋(神奈川大学名誉教授)變殿武(武蔵野大学教授)中村みどり(早稲田大学教授)見城悌治(千葉大学教授)孫安石(神奈川大学教授)など、外部の研究者と学術交流を行った。

「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成 その中間報告」(2022年9月、於明治大学)というシンポジウムを開催し、コロナ禍のために韓国からオンライン参加した李泰薫(韓国延世大学歴史文化学部教授・グローバル韓国学研究所所長)対面で参加した武藤秀太郎(新潟大学経済科学部教授)本研究の研究代表者および研究分担者の全員が参加し、当時留学生を日本に送り出した側の観点を取り入れた国際的な学術交流を行うことができた。

本研究の総括シンポジウムとして、最後の研究年度に当たる2024年2月に、国内外の研究者が参加した国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」(於明治大学)を開催した。本研究会のメンバー全員の研究発表と、韓国から延世大学歴史文化学部教授・グローバル韓国学研究所所長の李泰勲、韓国学中央研究院・韓国報勲処文書課の裴大植研究員、台湾の国立中央研究院近代史研究所所長の鍾淑敏先生が参加し、研究発表を行った。その時の各発表要旨は、今度の『大学史紀要』に掲載・刊行予定である(第31号、2025年3月予定)。

(9) 海外研究機関との学術交流の道開き

本研究の成果としては、何よりも韓国と台湾の研究所との間に今後も学術交流を継続していくことを、日本と韓国、日本と台湾の双方から希望していることである。韓国の延世大学グローバル韓国学研究所、台湾の国立中央研究院近代史研究所、およびその研究者との間に継続的な研究交流をしていくことになったことがあげられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 村上一博	4. 巻 第28号
2. 論文標題 「幻の『ポアソナード文庫』」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書の譜	6. 最初と最後の頁 114-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上一博	4. 巻 第30号
2. 論文標題 利光鶴松の行政裁判所法改正案	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治大学大学史紀要	6. 最初と最後の頁 8-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上一博	4. 巻 第30号
2. 論文標題 明治法律学校における杉村虎一の仏国相続法講義（下）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治大学大学史紀要	6. 最初と最後の頁 66-99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上一博	4. 巻 第30号
2. 論文標題 明大が国学んだ朝鮮法律留学生	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 明治大学大学史紀要	6. 最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村上一博	4. 巻 第26号
2. 論文標題 三淵喜子小伝	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 法史学研究会会報	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田幸男	4. 巻 第30号
2. 論文標題 戦前期明治大学の中国人校友	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 100-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下達也	4. 巻 第26号
2. 論文標題 日本統治期朝鮮における修身教育の独自性－教科書・実践研究を手がかりに	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 植民地教育史研究年報	6. 最初と最後の頁 14-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下達也	4. 巻 第46号
2. 論文標題 戦前日本の「外地」における教員不足問題 1930 - 40年代の朝鮮の事例を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 明治大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 53-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下達也	4. 巻 11
2. 論文標題 日本統治期朝鮮における学校観形成の一側面 普通学校修身書にみる学校の描写と指導の変遷	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 韓国文化研究	6. 最初と最後の頁 27 - 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三田剛史	4. 巻 21
2. 論文標題 帰国前後の朱紹文	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国研究論叢	6. 最初と最後の頁 5 - 24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高田幸男	4. 巻 26
2. 論文標題 シンポジウム「アジア留学生史研究の成果と課題」開催趣旨	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 8 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 土屋光芳	4. 巻 26
2. 論文標題 『中国人留学生と「国家」・「愛国」・「近代」』第 部「中国人留学生と『国家』の発見」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 11 - 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下達也	4. 巻 26
2. 論文標題 『孫基禎が駆けてきた道』について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学史紀要	6. 最初と最後の頁 145 - 161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 高田幸男
2. 発表標題 清末民国期における明治大学の中国人交友
3. 学会等名 中山大学等主催「16 - 20世紀東アジア地域の知識循環と秩序変動」国際シンポジウム、於中国広州市中山大学
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高田幸男
2. 発表標題 戦前期明治大学の「朝鮮」・「台湾」籍校友
3. 学会等名 本科研プロジェクト主催国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」、於明治大学アカデミーコモン308
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 李英美
2. 発表標題 明治大学外国人留学生第一号の金相淳について－開花期新教育の先覚者
3. 学会等名 本科研プロジェクト主催国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」、於明治大学アカデミーコモン308
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山下達也
2. 発表標題 戦前期の朝鮮人留学生と解放後韓国の教育界 明治大学留学生・朴俊燮の事例
3. 学会等名 本科研プロジェクト主催国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」、於明治大学アカデミーコモン308
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 村上一博
2. 発表標題 昭和戦前期における明治大学専門部女子部の留学生
3. 学会等名 本科研プロジェクト主催国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」、於明治大学アカデミーコモン308
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 三田剛史
2. 発表標題 中国革命と明治大学—二人の左翼留学生
3. 学会等名 本科研プロジェクト主催国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」、於明治大学アカデミーコモン308
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 土屋光芳
2. 発表標題 中華民国（1912 - 24）の民主主義体制はなぜ崩壊したか？
3. 学会等名 本科研プロジェクト主催国際シンポジウム「東アジア近代法学・関連諸科学ネットワークと人材育成」、於明治大学アカデミーコモン308
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 高田幸男
2. 発表標題 戦前期明治大学と臺灣人ジャーナリスト
3. 学会等名 「台湾文化協会百週年紀念」国際學術研討会（台北大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村上一博
2. 発表標題 台湾近代民事裁判法の諸問題
3. 学会等名 「台湾文化協会百週年紀念」国際學術研討会（台北大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高田幸男
2. 発表標題 日本の華南教育調査
3. 学会等名 東洋文庫近代中国研究班主催オンラインシンポジウム「東洋文庫刊『戦前日本の華中・華南調査』をめぐって（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 佐藤仁、小野瀬善行、植田みどり、張揚、伊井義人、中田麗子、矢田匠、牧貴愛、辻野けんま、田中光晴、山田達也、原北祥悟、北田佳子、矢野博之	4. 発行年 2024年
2. 出版社 学术研究出版	5. 総ページ数 219
3. 書名 多様な教職ルート of 国際比較：教員不足問題を交えて	

1. 著者名 阿部洋、佐藤由美、山下達也、田中光晴、佐野通夫、李吉魯	4. 発行年 2023年
2. 出版社 龍鷄書舎	5. 総ページ数 232
3. 書名 日本植民地教育政策史料集成(朝鮮編)別集2朝鮮教育関係公文書解題・目録	

1. 著者名 李英美、村上一博、高田幸男、山下達也、三田剛史、土屋光芳、阿部裕樹	4. 発行年 2023年
2. 出版社 DTP出版	5. 総ページ数 122
3. 書名 白雲なびく遙かなる明大山脈 アジア編	

1. 著者名 村上一博、高田幸男	4. 発行年 2021年
2. 出版社 DTP出版	5. 総ページ数 258
3. 書名 明治大学140年小史	

1. 著者名 野世永水・加藤斗規編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 銀河書籍	5. 総ページ数 610
3. 書名 近代東アジアと日本文化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山下 達也 (YAMASHITA TATSUYA) (00581208)	明治大学・文学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	三田 剛史 (MITA TAKESHI) (00624107)	明治大学・商学部・専任准教授 (32682)	
研究分担者	村上 一博 (MURAKAMI KAZUHIRO) (10212250)	明治大学・法学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	土屋 光芳 (TSUCHIYA MITSUYOSHI) (20197726)	明治大学・政治経済学部・専任教授 (32682)	2022年度から定年退職により、名誉教授。
研究分担者	高田 幸男 (TAKADA YUKIO) (90257121)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関